アマゾン熱帯林のいま

～ブラジル、ボルソナロ政権下の開発圧力に立ち向かう先住民族

2020 年 9 月 12 日（土）

［講師］下郷さとみ：ジャーナリスト / NPO 法人 熱帯森林保護団体(RFJ-Rainforest Foundation Japan)協力者
［主催］ウータン・森と生活を考える会

アマゾン熱帯林

水域面積 690 万㎢（地球の陸上面積の 5% / 南米大陸の面積の 40%） / **世界最大の淡水**：世界の地上淡水量の 15%
南米 9 カ国に広がる広大な森：アマゾン熱帯林総面積の 63%がブラジルに存在
ブラジル・アマゾン熱帯林面積 420 万㎢ ＝ ブラジルの国土面積の 49%（日本の目土面積の 11 倍）

ブラジル先住民族

人口：89 万 7962 人 *ブラジル全人口の 0.26%（Censo2010 -IBGE）/ **民族数：305 民族** / **言語数：274 言語**
- 先住民族全人口の 37%がアマゾン地域に居住
- ポルトガル人到達時のブラジル全土における当初人口（西暦 1500 年）：推定およそ 500 万人
- 一時、民族絶滅の危機に：最も人口が減った時期 1957 年＝約 7 万人

先住民族の土地（TI –Terras Indígenas）：
民族固有の先住権と占有権（居住と土地利用の権利）が認められている土地 / 総面積＝国土の 13%
- **境界画定がなされ大統領署名が終了した TI**（権利が法で保障）：**全国 487 カ所**
- **調査対象/境界画定作業途上の TI**（権利の保障無し、または容認）：**全国 237 カ所**

アマゾン南部 シングー川流域（RFJ 支援対象地域）

シングー川：全長 1979 ㎞ / 流域面積 53 万 1250 ㎢
アマゾン河主要支流のひとつ。ブラジル中央部マトグロッソ州内のセラード（熱帯草原/サバンナ）からアマゾン熱帯林へ遷移する地域に端を発し、北上してアマゾン河下流部で合流する。
広大な先住民族保護区が存在し、伝統文化が色濃く残る国内でも数少ない地域。

RFJ 支援事業・・・支援で最も重要な視点「プロタゴニズモ」

プロタゴニズモ＝「当事者自身が課題や問題に主体的に取り組む運動のあり方」。先住民族自身が主体的に考え、自己決定し、解決の道を作り出していく……このプロタゴニズモを力づけていくことが支援活動では重要である。ブラジルでは民主化後に制定された 1988 年の新憲法までは、先住民族は自身の判断で権利や義務を行使する能力のない「制限行為能力者」とされていた。支援の場でも、いわば「ほどこしを与える」という形が主流の時代が長く続いた。それとは全く違う「プロタゴニズモ＝人とコミュニティのエンパワーメント」は、成果が目に見えるまでには長い時間を要する。そんな中、下記の RFJ 主要支援事業では若い世代が着実に育ち、事業の成果をあげている。

［シングー上流域］**シングー先住民族公園** 面積 2 万 6430 ㎢
養蜂事業：森林資源を活用した持続可能な自立経済の創出（ハチミツおよびミツロウ製品の生産と商品化）

［シングー中流域］**カポト・ジャリーナー先住民族保護区** 面積 6349 ㎢
消防団事業：森林火災の防止，監視活動(保護区不法侵入の防止)，自立経済の創出につながる荒廃地の森林再生(商品価値を持つ地域原産の有用植物を荒廃地に植林)

ブラジル・アマゾン森林破壊面積

（年/面積㎢）PRODES/DETER – INPE

1990	1995	2000	2005	2010	2012	2015	2016	2017	2018	2019
13, 730	29, 059	18, 259	19, 014	7, 000	4, 571	6, 207	7, 893	6, 947	7, 536	9, 762

2020 年乾期 5 月～8 月の森林破壊面積：昨年同時期と比べて 38%増大

森林破壊・森林火災の要因

アマゾン開発

大規模農業開発：肉牛放牧地(アマゾン農業開発の８割) / 耕作地(2 割：大豆、トウモロコシ、綿花) /
地下資源開発：金、鉄、ボーキサイト、ニオブ、石油など / 電源開発：水力発電ダム

違法開発行為　現在の森林破壊の 95%が違法の手段によるもの（2019.7/Mapbiomas 調査）

・農地管理・農地拡大

農地管理を目的とした草地の野焼き / 農地拡大を目的とした農牧場内の残地森林の焼払い /
農地拡大を目的とした自然保護区や先住民族保護区の森の焼払い＋不法占拠

・保護区内における違法経済活動

木材盗伐（マホガニーやイペーなどの輸出用高級木材）/ 金採掘 / 川魚密漁 / 野生動物密猟

乾燥化の進行：**森林消失の進行 → アマゾン一帯で乾燥化・高温化が進行 → 延焼による森林火災の頻発**

上記違法野焼き・焼払いの火元の延焼 / 先住民族や伝統零細農家が自給畑で行う焼畑の火の延焼

アマゾン農業開発（アグリビジネス）・地下資源開発

＜牧畜＞　牛肉生産のための牧畜（牧草地での完全放牧の手法による）

- ブラジル全国の肉牛の頭数の 4 割がアマゾンで飼育されている
- アマゾンの農地の 8 割が牧畜地（牧草地）

大規模牧畜業が環境に与える影響：

肉牛を 100 万レアル分生産するために 2200 万レアル分に相当する環境破壊が発生　GIZ/CEBDS 2015

＜大豆＞ 大豆+綿花、大豆+トウモロコシなどの二毛作 / 乾期(4 月～9 月)は休耕

- ブラジルの大豆生産量：1 億 1484 トン / 栽培面積 36 万㎢（2019）Embrapa – CONAB
  アメリカ合衆国（1 億 2366 トン）に次いで世界 2 位
- 全国の大豆栽培面積のうちアマゾンに占める割合：13%

＜日本と大豆＞　大豆自給率 7% / 食品用大豆自給率 24%（2016）農水省

日本の大豆輸入先と量：アメリカ合衆国 232 万トン / ブラジル 56 万トン / カナダ 33 万トン / 中国 3 万トン（2018）

日本ブラジル・セラード農業開発協力事業（PRODECER）：1979 年～2001 年

セラードを日本の新たな食糧庫と位置づけ ODA を投入して大豆開発を実施
総事業費：684 億円(うち ODA 予算 279 億円) / 開発面積：34 万 5000ha（セラード農業開発地全体の 2.4%）
入植者：717 戸（平均 481 ha/戸, 中規模農家が中心）

＜日本と地下資源開発＞：ODA 協力、資源の輸入

- ニオブ開発（計画？）：2019.6 大阪 G20 サミットでボウソナロ大統領と安倍首相が会談
- アマゾンアルミ・プロジェクト：パラ州・1977 年～
- 大カラジャス開発：パラ州・1982 年～。世界最大の鉄鉱石埋蔵量（180 億トン）

*鉄道・道路・港湾・精錬工場などの建設、精錬用木炭生産(カラジャス開発)、ツクルイ水力発電所建設(アルミ精錬)により大規模な森林破壊や鉱物残渣による水域の汚染 etc.が発生

*ツクルイ水力発電所：出力 8370 メガワット（国内最大）。このうち約 1 割をアマゾンアルミ・プロジェクトで使用

先住民族の存在がアマゾンの森 / 地球環境 / 地球の健康(planetary health)を守っている

- **地球環境保護への貢献**：水資源の保護、地球規模の水循環や気候の保全、温暖化ガス排出抑制
- **生物多様性のゆりかご**：世界の先住民族（世界人口の 5%）の居住区に世界の生物多様性の 80%が存在
- **二酸化炭素排出抑制**：アマゾン先住民族保護区の森の二酸化炭素排出抑制効果：4 億 3100 万トン分（2006～2020 年）

アマゾンを守る最後の砦　自然保護区は指定取り消しが可能だが、先住民族保護区は憲法で権利が保障されている。開発圧力が高まる中、先住民族保護区はアマゾンの森を守る最後の砦となっている。

現政権のアマゾン開発方針　ボルソナロ大統領は、住民族保護区内で先住民の同意無しの地下資源開発を可能にする法案や、保護区内の不法占拠状態を恩赦して正規に農地と認める法案などの準備を進めている。なお、先住民族の権利擁護や、保護区監視活動や森林火災対策にかかる予算は現政権下で大幅削減～凍結状態である。